

2018. 8 マニプール HP 用ワークキャンプ報告文



【活動日程】

8月9日～8月27日

【活動場所】

インドウエストベンガル州プルリア県アドラ地方マニプールハンセン病コロニー

【参加者（日本）】

計7人 芦沢龍太郎（筑波大学4年）、齋藤優里香（筑波大学2年）、八木咲良（筑波大学2年）、國久茜里（筑波大学2年）江川陽人（筑波大学1年）、木村志乃（筑波大学1年）、安原舞奈美（筑波大学1年）

【活動報告】

《リサーチプロジェクト》

《概要》

マニプールコロニー周辺に住む人々を対象に、

- ・村外の人々のハンセン病・ハンセン病患者に対する意識調査
- ・村の人々の家族構成や職業、生活水の利用についての調査

の2点に関してリサーチを実施した。

《目的》

マニプールコロニーやハンセン病快復者に対する差別の現状・マニプールコロニー周辺に住む住民の基本情報に関して把握することで、より多面的にマニプールコロニーが抱えている課題を認識し、今後の活動につなげていくことができると考えたため。

《成果》

リサーチ結果より、ハンセン病コロニー出身の人々に対してネガティブな感情がある人はほとんどいないということが分かった。また、「自分の子供がハンセン病コロニーの人と結婚したいと言ったらどうするか（独身の場合は自分が結婚できるか）」という直接コロニーの人々と関わ

ることに関する質問では、ネガティブな反応を示す人が増加することもわかった。この原因の1つとしてコロニー周辺の人々がハンセン病に関する知識を有していない、もしくは誤った知識を持っていることがあると考えられるため、今後のキャンプではハンセン病に関する正しい知識を広めるための活動などを中心に実施していきたい。

以下リサーチ結果の一部である。

・「ハンセン病コロニー出身の人にネガティブな感情はあるか」
→ネガティブな感情を抱いている：48名中2名（4.8%）

・「子供がハンセン病コロニーの人と結婚したいと言ったらどうするか（独身の場合は自身が結婚できるか）」
→結婚させない：36名中5名（13.9%）

・「ハンセン病を知っているか」
→知らない・誤った知識を持っている：46名中20名（43.5%）



コロニー外リサーチの様子



コロニーの若者と協力してリサーチを実施する様子

《ゴミ処理 MTG プロジェクト》

《概要》

マニプールコロニーにおいて長期間にわたって問題となっていたゴミ処理に関して新たな体制を検討するために、村長のダス氏、わびねす理事、日本人キャンパーで三者間ミーティングを実施した。

《目的》

ゴミ箱のゴミ処理問題に関するシステムを構築し、「ゴミ箱が満杯で捨てられない」という現状の問題を解決すること。

《成果》

①わびねすによってマニプールコロニーが主となって運営する就労支援事業を立ち上げ、その利益の一部をゴミ処理に活用すること・②ゴミ処理の際の労働者はマニプールコロニーの人々が決定すること、の2点について合意を得ることができた。



ゴミであふれかえったゴミ箱



ゴミ処理 MTG の様子

《水質調査プロジェクト》

《概要》

水質調査キットを用いてマニプールコロニー内に存在するすべての井戸の水質を調査し、過去に **namaste!** が作製した井戸とインド政府が作製した井戸の水質を比較した。また、**namaste!** が作製した井戸の周辺に住む村人たちにリサーチを実施し、井戸に関する問題点を調査した。

《目的》

マニプールコロニー内の井戸の水質を把握し、インドの飲料水の水質基準や WHO が定める安全な飲料水水質基準と比較することで、次回以降のキャンプで水質改善のためにワークを実施する必要があるのかどうかを判断すること。

《成果》

「パケットテストによる井戸水検査セット(型式 AZ-2W-2)」(共立理化学研究所販売)を用い、pH、鉄、全硬度、COD (化学的酸素要求量)、亜硝酸の 5 項目に関して調査を行った。それらに加え、見た目や臭い、村人から聞いた情報に関する結果欄に記載した。今回の各水質調査項目の概要と水質調査結果は以下のとおりである。

なお、これらの調査項目は水に含まれる細菌などの存在などに関してまでは網羅されていないため、調査結果の数値だけではその水が安全かどうかを確実に判断することはできない。そのため、あくまで水のきれいさを示す目安程度の値であるという認識を持つ必要がある。

(1)水質調査項目の概要

| 調査項目 | 概要 | WHO 飲料水 水質基準 | 日本 水質基準 | インド 飲料水 水質基準 |
|------|--|--------------------|---------------|--------------------|
| pH | 水の酸性、アルカリ性の程度を示す数値。 0 が酸性に近く、14 がアルカリ性に近い。 | — | 5.6~8.5 | 6.5~8.5 |
| 鉄 | 水の中に含まれる鉄分の合計量を表す数値。 | — | 0.3mg/L 以下 | 0.3mg/L 以下 |
| 全硬度 | カルシウム硬度とマグネシウム硬度の合計量を表す数値。地域によって大きく数値が異なるため、日本の基準値が 20~100mg/L なのに対し、海外では 300mg/L を超える地域も多く存在する。 | — | 300mg/L 以下 | 600mg/L 以下 |

| | | | | |
|-----|---|-----------|------------|---|
| COD | 水中にある物質が酸化剤によって参加・分解されるときに消費される酸素量のこと。 5.0mg/L以上のCOD値が得られた場合は、汚水混入などの可能性がある。 | — | 5.0mg/L以下 | — |
| 亜硝酸 | 食べ物のかす、し尿などによって発生する亜硝酸イオンの量を示す数値。 値が高い場合は、近くにある生物由来の汚染源から流入している可能性がある。 | 3.0mg/L以下 | 0.04mg/L以下 | — |

(2) 水質調査結果

| 該当井戸 | pH | 鉄 | 全硬度 | COD | 亜硝酸 | 色 | 臭い | その他（該当井戸周辺住民の意見） |
|---------------|-----|--------|------|-----|------|------|------|-------------------|
| ①ジョーチョンリー側 | 7.0 | 0.3 | 150 | 3.0 | 0.15 | 少し黄色 | なし | |
| ②ボーイズ Hostel前 | 7.0 | 0.3 | 100 | 5.0 | 0 | 少し黄色 | なし | |
| ③線路沿い | 7.5 | 0.05以下 | 80 | 2.0 | 0.1 | 少し黄色 | なし | |
| ④線路沿い（ドカン前） | 7.0 | 0.7 | 100 | 4.0 | 0.1 | 少し黄色 | 草っぽい | |
| ⑤モンデル周辺 | 7.0 | 0.05以下 | 200+ | 4.0 | 0.2 | なし | なし | |
| ⑥ダス氏宅前 | 7.3 | 0.05以下 | 100 | 4.0 | 0.2 | なし | なし | |
| ⑦ダス氏宅裏 | 7.0 | 0.8 | 180 | 7.5 | 0 | 黄色 | 少し臭い | 汚いから飲んではいけないと言われた |
| ⑧道路修繕箇所の奥 | 8.3 | 0.05以下 | 200+ | 7.0 | 0.07 | なし | なし | 体を洗ったらかぶれたことがある |
| ⑨アドラ駅側 | 7.3 | 0.2 | 200+ | 5.0 | 0.07 | なし | なし | 雨季の間は水が黄色くなる |

※「該当井戸」の欄が黄色になっている井戸は、namaste!が過去のワークキャンプで作製した井戸を表す。

※調査により得た結果のうち、日本の水質基準を超えているものは赤色、日本の基準に加えインドもしくはWHOの飲料水水質基準も超えているものに関しては紫色で表記した。

結果より早急に対処しないと村人の健康に重大な害を及ぼすと考えられるほどの水質の悪さではないことが明らかになった。今後はほかのワーク活動との兼ね合いを考慮しながら対応していくべきであると考えられる。



水質検査を行う様子



試薬を用いた水質検査の様子

《道路修繕プロジェクト》

《概要》

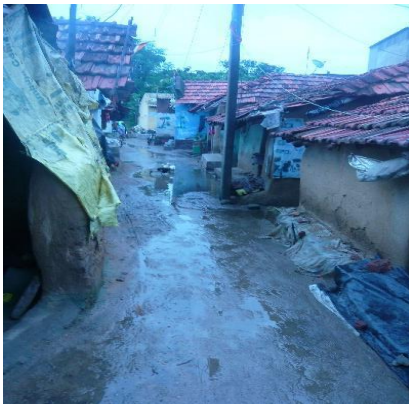
目視とインタビュー形式の研究という2つの観点から、2018年3月キャンプで行った道路修繕ワークの事後リサーチを実施した。

《目的》

2018年3月キャンプ以降において道路修繕PJを続けていくのかどうか、どのような形で行うのか判断材料を得るとともに、排水機能以外に問題点があるのであれば、それらを明確にする必要があると考えたため。

《成果》

2018年3月キャンプで行ったワークにより、道路修繕箇所の周辺に小さな水たまりが発生するという新たな問題が起きていることを明らかにすることができた。この問題が村人の生活に深刻な影響を与えているわけではないため、今後ワークとして再度道路修繕を行うかは未定だが、他のワークニーズなども考慮しながら検討していきたい。



修繕箇所である道路の様子



修繕結果に関するリサーチの様子

《絵本読み聞かせプロジェクト》

《概要》

マニプールコロニーの子どもたちに協力してもらいながら絵本に書いてあるベンガル語を読む練習を行い、練習したことをもとに子供たちに個別・全体の読み聞かせ会を開催した。村内の小学校で実施した読み聞かせ会では、絵本の内容や感想を子どもたちに絵で表現してもらうという活動も行った。読み聞かせで用いた本に関しては、ボーイズホステル、ガールズホステル、小学校、オフィス、孤児院に寄贈した。

《目的》

他人を思いやることの重要性に関する本の読み聞かせを通してマニプールコロニーの子どもたちの道徳的感性や情緒をはぐくむことや、読み聞かせを通して多くの村人と交流することで、信頼関係を構築することを目的とし、このプロジェクトを実施した。

《成果》

読み聞かせ会を開催することができた。読み聞かせ会では子供たちが絵本に釘付けになっており、個別に感想を聞いた際にも非常に満足していたことが分かった。また読み聞かせを通して、小学校の子どもたちをはじめとする多くの村人たちと交流する機会を設けることができた。次回以降のキャンプでも、村人とのコミュニケーションや子供たちの感性をはぐくむ場としてこのプロジェクトを継続していきたい。



絵本読み聞かせ会の様子



絵本の感想として描いてもらった絵